

## The Gymnocalycium of Uruguay.

### 2. South-western Uruguay.

「ウルグアイのギムノカリキウム その2. 南西ウルグアイ

*G.hyptiacanthum* (Lemaire) Britton & Rose (和名：雪冠玉)」

Massimo Meregalli

Via Vittoria Nenni 61/19, 10040 Rivalta (Torino, Italy)

e-mail: [massimo.meregalli@schuetziana.org](mailto:massimo.meregalli@schuetziana.org)



※これは、Mario Wick 氏が主宰する、Gymnocalycium のインターネットジャーナル(<http://www.schuetziana.org/>)  
に載せられた記事です。著者の好意で翻訳の掲載許可を頂いています。無断転載を禁止します。(翻訳：島田寿男)

### 要約

ウルグアイのギムノカリキウムに関する、この論文シリーズの最初の部分では、*G.hyptiacanthum* (和名：雪冠玉) の命名法的と分類学的情報が発表された。そしてネオタイプの個体群 (population) が論じられた。ネオタイプの個体群に非常に類似した、Colonia 地区の個体群についての論評が加えられた。

*G.hyptiacanthum* に帰せられる、幾つかの他の個体群は、ウルグアイの南部を横切って分布している。この第二部では、Canelones、Montevideo、San Jose、そして Colonia の諸地域からの知られている個体群が議論されるだろう。

### Canelones 地区

1989年、良く知られたカクタス採取家シュロッサー (Hugo Schlosser) 氏は、私に *Gymnocalycium* sp. “Cerros Mosquitos” と鑑定された、幾つかの植物を送ってきた。これらの植物には、シュロッサー氏の番号は割り当てられていなかった。それは、疑いもなく、当時ヨーロッパで、*G.leeaanum*、そしてウルグアイでは *G.hyptiacanthum* と呼ばれている物に属している。数年後、2000年12月、私は、この丘陵群を訪問する機会があった。そこではギムノカリキウムの素晴らしい、ある個体群を発見した。; 2004年、ベルヒト (Ludwig Bercht) 氏とデュアルテ (Williams Duarte) 氏と一緒に旅した時、*G.hyptiacanthum* の “Cerros Mosquitos” のこの形態の多くの出現が見出された。

ウルグアイの南端部では、ギムノカリキウムの植物に出くわす事は、非常に容易では無い。地形は平らで、草が多い、そして土壌はしばしば厚みがある。カクタスの成長に適している条件である、浅くて、石の多い、あるいは岩の露出のある場所は稀で、低い丘の中と小さな川の傾斜した土手の上に散乱している。その上、南ウルグアイは、人口密度が高く、そして広範な穀物、及びユーカリ属 (*Eucalyptus*) と松属 (*Pinus*) の栽培で、耕作されている。これらの木の栽培は、石の多い斜面のような、通常、穀物栽培に適していない、地域に位置している。それはカクタスが育つ、あるいは育っていた、最も重要な自生地であった。: ある地域では、耕作や定住拡大のような人間の活動は、以前知られていた (Williams Duarte 氏の個人的連絡)、ギムノカリキウムの出現 (生息) を完全に全滅させた。

## Cerros Mosquitos と周辺地域

Cerros Mosquitos の丘陵の上と、周辺の低地には、いくつかの *G.hyptiacanthum* の個体群が、生存している。刺は 9 本から 11 本、密生して、一般的に細くて、捩じれている、不規則な長さ、しか



図 1-3 : *G.hyptiacanthum* (MM 366)、  
Cerros Mosquitos 産



し一般的には、むしろ長い、灰色っぽい、下から三分の一は、明確な、赤っぽい色彩を持つ、そして時々、先端でも赤っぽい色を持つ。より大きな個体の稜は多数、15 個以上もある、そしてその形状は、非常に丸みがある、山の部分は鈍角、比較的、顕著な瘤を伴う、瘤は互いに、深い横溝で隔てられている。栽培では、良く成長する条件では、

横溝は より浅くなる、しかし依然として目に見える。そして稜は、規則正しく、先が鈍角で、低い、丸みのある瘤を伴う。花は比較的濃い黄色、小さい、そして子房は、特に短い。

一つの個体群は道の傍、Cerros の丘陵の一つの頂上付近で見つかった。その自生地は比較的乾燥し、石が多い。そして個体は、それを見た時はかなり小さかった。丘陵の自生地の一般的な一様性を考慮すると、*G.hyptiacanthum* は Cerros Mosquitos にかかなり広く行き渡っているように思える。(MM 366、図 1 から 3)





図 4-7 : *G.hyptiacanthum* (MM 450)(4-5 は前頁)



図 8-9 : *G.hyptiacanthum* (MM 450)

平原では、上で説明したように、カクタス群、そして特にギムノに適当な自生地は脅かされて、散乱している。しかしながら、数個の個体群が、Cerros Mosquitos の南側、国道 8 号沿いに発見された。これらの一つは、丘から流れ出している小さな小川、Arroyo Mosquitos にかかる橋の近くで見つかった。(MM 450) この自生地は高い湿気のある条件があり、幾つかの個体は大きく育っているように見えた。しかしながら、その特徴は、丘陵の頂上の個体と比較して、大きくは変わらない。；変異は刺に良く観察された。(図 4 から 9)



図 10-11 : *G.hyptiacanthum* (MM 497)



図 12 : *G.hyptiacanthum* (MM 497)



図 13 : *G.hyptiacanthum* (MM 427)



図 14-15 : *G.hyptiacanthum* (MM 427)

他に、非常に類似した個体は、西へ数キロメートルの場所に在る。いつも国道 8 号に沿って、Km55 地点 (MM 497、WD 6) の近く、そして再び、この場所から 5km 西の Paso de los Padres (MM 427)。刺の形状と長さにおける変異は、いつも矛盾が無い。そして幾つかの個体では、その稜はより顕著で、刺座の下で細くなった瘤を持っている。(図 10 から 15) 花はより大きく、より長い胚珠 (ovary) と子房部 (pericarpel) を持っている。これら三つの個体群各々は、見た所では、僅か数個の個体を数えるだけである。ある場合には、長い、完全な探索の間に 10 個未満が見られた。明らかに、全て





図 16-19 : *G.hyptiacanthum* (MM 496) (16-17 は前頁)

の個体が突きとめられるわけではない。それら通常発見するのは非常に難しい。草の中に隠されていたり、砂利の下に埋まっていたりする。しかしそれにも拘らず、これらの個体群は、明白に、非常に少ない個体数からなっている。

幾つかの個体もまた、Cerros Mosquitos の北西側でも見つかった。*G.hyptiacanthum* の個体群が群がる、一つの小さな丘が Cerros の西側、Paso de Los Padres から Cerros Mosquitos への道が横切る所に在る。(MM 496、WD7) 大きな岩の露頭近くでは、*G.hyptiacanthum* の個体は見つからなかった。そこには *Wigginsia* と *Parodia (Notocactus)* だけが生えている。: ギムノは草の生えた石



図 20-21 : *G.hyptiacanthum* (MM 496)

の多い土壤に散乱していた。それらの個体は小さくて殆ど見えなかった、しかし比較的豊富であった。(図 16 から 19)

それらは、Cerros の南の斜面の個体とは、刺の長さや形状の通常の変異を含めて、重大な違いはない。(図 20 から 21)

更に、西の Pando 近くで、新たな個体群が Ingo Horst 氏により発見された (HU 1234)。残念な事に、この原稿を作っている時には、標本の写真も自生地の写真も手に入らなかった。

### Cerro Piedras de Afilas

これは、Cerros Mosquitos のおよそ 15km 南東の、一つの丘である。石の多い丘の頂上には、ギムノカリキュームの個体は全く見つからなかった。しかし幾つかの個体は、草の生えた斜面に生息している。(MM 367) それらの個体は Cerros Mosquitos の個体に、かなり類似している。しかし刺は

一般的に、真っ直ぐで、幾分より太くて頑丈である。；基部の色は変化する。ある個体例では赤っぽいと言うよりむしろ明るい、黄色からオレンジ色である。瘤は、少しばかりより圧縮されて、よりし



図 22-23 : *G.hyptiacanthum* (MM 367)

ばしば、刺座の下に小さな顎を形成する。幾つかの古い個体もまた 1 本の中刺を持つ。中刺は垂直で、硬直し、縁刺よりも幾分より長く、より強い。(図 22 から 25)、この個体群は Maldonado の地域に分布している個体への幾つかの過渡的な特徴を見せ始める。



図 24-25 : *G.hyptiacanthum* (MM 367)

更にもう一つの個体群が Montevideo の北、Progreso の町の直ぐ近くで見つかった。(Garabelli 氏の個人的な連絡) 私はデータも写真も無い。しかしこれらが手に入れば直ぐに、この雑誌にそれを加えるつもりである。

表 1 に Canelones からの分っている個体群のリストを示す。地理的な参考文献データは省いている、

表 1 ; Canelones 地区産の *G.hyptiacanthum* の既知の個体群の一覧

フィールド番号	所在地
Gf 1254	国道 8 号 Km55
HU 1234	Panfo
KH 9426	Soca の北、国道 8 号、Arroyo Mosquitos

LB 1721	Arroyo Mosquitos 国道 8 号の橋の上
LB 2520	国道 8 号、Km50 から北に 500m、Paso de los Padres
LB 2524	Arroyo Mosquitos
LB 2627	道(camino)Pedrea の十字路
LB 2632	Cerros Mosquitos の東
LB 2639	国道 8 号、Km55.300
LB 2648	Cerro Piedras de Afilar
MM 0366	Cerros Mosquitos
MM 0367	Cerro Piedras de Afilar
MM 0427	国道 8 号、Km50 から北に 500m、Paso de los Padres
MM 04560	国道 8 号、Arr. Moaquitos
MM 0496	(camino)Pedrea の十字路
MM 0487	国道 8 号、Km55.300
Schl 126	Cerro Peidras de Afilar、Montevideo の 90km 北
WD 006	国道 8 号、Km50 から北に 500m、Paso de los Padres
WD007	道(camino)Pedrea の十字路



図 26 : Canelones 地区産 *G.hyptiacanthum* の既知の個体群の地図

## Montevideo 地区

この地区では、ギムノカリキウムに対して一つの指摘のみが存在する。それは Schlosser 氏により発見された、彼はそれに番号 Schl 141 を与えた。私は現在、栽培品の中でこの番号を持つ植物の情報を全く持っていない。Gustavo Garabeli 氏により行われた最近の探索では、いかなる個体例も見つける事に成功していない、尤も他のカクタス科はこの地域に存在する。

## San Jose 地区

私は、ギムノカリキウムの単一のある、個体群を知っているだけである。それは国道 3 号の km122 の地点、Arroyo Chamizo (MM 500 ; 恐らく San Jose の北 30km と言われている、JPR 593



図 27-28 : *G. hyptiacanthum* (MM 500)

と STO 1498 と同じ) で見つかった。この個体群の植物は、扁平な瘤を伴った、比較的幅の広い稜を持つ。刺は、数は 7 本で Canelones の個体の刺とは相当に異なっている。真っ直ぐで、均斉がとれ、刺座の上に規則的に配置されている。; 刺は明るい灰色で、赤い色は、まさに基部と先端に限定されている。花は少し大きい、特に花筒部(receptacle)、そして非常に明るい黄色である。スリムな、鋭く尖った、花弁 (segments of the perianth) を持つ。(図 27 から 28 ) もう一つの個体群は Gustavo Garabelli 氏に知られている。そしてここでもまた、より新しい情報は手に入り次第直ぐに与えるつもりである。

## Colonia 地区

この論文シリーズの第一部で、殆ど *G. hyptiacanthum* のネオタイプに同じ Cerro Campana からの個体群が記述され、図示された (WD 1 ; Schl 136)。この地区では、Cerro Campana 産の個体群とは驚くほど事になっている、いくつかの他の個体群が見つまっている。この地区の北部、Miguelete の村落の近くで素晴らしい個体群が見つかった。(MM 504) 驚く事ではないが、それは Soriano 地区の南部産の個体群と類似している。刺の数は 5 本あるいは 7 本、Canelones 産の個体群や WD 1 と比較して、幾分より短い、下部の刺は、最も長く、最も強い。上部の 2 本の刺は非常に短い。刺の基部は、先端 (the apex) と同じく、明瞭に赤っぽい。稜はより明瞭に、凸になっている、時々、球状の瘤に分割されている。瘤は深い横の切り込みで、互いに離れている。花はどちらかと言うと大きい、明るい黄色、花弁は、先端で、鋭く顕著になる、中筋 (median vein) を持つ。(図 29 から 32)





☒ 29-32 : *G.hyptiacanthum* (MM 504)





図 33-38 : *G.hyptiacanthum* (MM 429) (33-36 は前頁)



図 39-40 : *G.hyptiacanthum* (MM 429)



図 41 : *G.hyptiacanthum* (MM 429)

図 42 : *G.hyptiacanthum* (MM 139)

幾つか、他の個体群も、Cerro San Juan の周辺で、国道 22 号に沿って見出されている。(MM 139、MM 429、MM 431、MM 505) この地域の個体は、非常に変化に富んでいる、恐らく北部と東部の個体群とのあるいはその間の遷移を示している。それらのいくつかは、通常、東部の多くの形態のように、7 本から 9 本の捩じれた赤い基部の刺を持つ。しかし他の、より大きい個体は 5 本から 7 本の、より強くて堅い、真っ直ぐな刺を持つ、それは Soriano 産のもっと北の個体群に似ている。先の個体は、若い個体例であるように思える。実際、栽培すると刺は、より長く、真っ直ぐになる傾向がある。しかしながら、刺の強さにおける相違点は持続する。稜の間の縦溝は一般的に深い、そして

Canelones 産の個体の溝よりも深い。(図 33 から 48)



図 43 ; *G.hyptiacanthum* (MM 139)



図 44 : *G.hyptiacanthum* (MM 431)



図 45-46 : *G.hyptiacanthum* (MM 431)



図 47-48 : *G.hyptiacanthum* (MM 505)



表 2 : Montevideo、San Jose、そして Colonia からの既知の個体群の一覧表

フィールド番号	場所	地区
Gf 1259	Cerro Campana	Colonia
JPR 99-204/609	国道 54 号、km63、La Lucha の東	Colonia
KH 0662	国道 22 号、Terarias の北西	Colonia
LB 2130	国道 22 号、Terarias の北西	Colonia
LB 2660	Cerro Campan	Colonia

LB 2664	Miguelete の東	Colonia
LB 2666	国道 22 号、Terarias の北西	Colonia
LB 2670	Cerro S. Juan	Colonia
MM 0139	国道 22 号、km7.8. 国道 81 号の交差点	Colonia
MM 0429	国道 22 号、Arr. S. Juan の東 3km	Colonia
MM 0431	国道 22 号、Cerro S Juan,東斜面	Colonia
MM 0502	N.Rosario, Cerro Campana	Colonia
MM 0504	国道 54 号、Miguelete の東	Colonia
MM 0505	Cerro S.Juan	Colonia
Schl 136	国道 2 号、Rosario と Cardona の間	Colonia
STO 99-1502/1	国道 54 号、Miguelete の東	Colonia
WD 01	Cerro Campana	Colonia
JPR 99-196/593	国道 3 号、San Jose から 30km	San Jose
LB 2655	国道 3 号、km122、Arr.Chamizo の北 10km	San Jose
STO 99-1498/1	国道 3 号、San Jose の北 30km	San Jose
MM 0500	国道 3 号、km122、Arr.Chamizo の北 10km	San Jose
Schl 141	Punta del Espinillo	Montevideo



図 49 : Colonia、Montevideo、San Jose 地区からの *G.hyptiacanthum* の既知の個体群の地図  
表 2 には、Montevideo、San Jose そして Colonia 産の既知の個体群の一覧表を示す。  
地理的な参考文献は除かれている。

全ての写真は Massimo Meregalli による、地図 26 と 49 は Mario Wick 氏による。

続く